

共同研究事例

【研究者】
株式会社サンオータス

【研究期間】
令和7(2025)年度～
令和9(2027)年度

●背景・課題

市内の交通部門における脱炭素を推し進めるため、次世代自動車等の導入促進や各インフラにおける拠点整備等が急務となっています。

●研究内容

この研究では、再生可能エネルギーを由来とする電力を活用したEVカーシェア拠点を市内各地に設置し、「CO₂排出量の少ない交通手段の提供」と「次世代自動車の導入・活用」を推し進めます。

●得られる効果、成果、展望

交通部門の脱炭素化と、削減されたCO₂の見える化を図ることで、市民への行動変容を促します。

実証フィールド

市内で設置可能なエリア

連携型共同研究事業

脱炭素社会の構築

再エネ×IoTを利用したグリーンモビリティによるCO₂削減に関する研究

研究概要図

- ① マルチモビリティステーション
(ソーラーカーポート
×EVカーシェア
×サイクルシェア)
の更なる設置に向けた各種検討



- ② マルチモビリティステーションから
のデータ収集・蓄積・分析

CO₂の可視化イメージ



- ③ シェアモビリティ利用
による環境意識向上と
行動変容の促進



用語解説

太陽光発電を備えた電動モビリティ充電ガレージ「E-Cube」とは

ソーラーパネルと蓄電池を備えたEVカーシェアの設備です。小型EVや電動自転車が設置されており、これらはソーラーパネルから発電された電気を利用するため、再生可能エネルギーを利用した走行が可能です。ソーラーパネルから発電された電力と走行により消費された電力は、常にモニタリングされており、データを蓄積しています。